

2021年7月16日（金）開催
IGS オンライン国際セミナー（生殖領域）

『生理の貧困』を開催するにあたって

豊かに見える現代社会の中で、経済的な理由から、生理用品を手に入れることに苦労している女性たちがいます。また月経の影響を受けて、大事なチャンスを逃す女性も少なくありません。月経はほとんどの女性にとって一生のうちの一定の期間、ほぼ定期的に経験する身近な生理学的現象であるにもかかわらず、私たちはこの月経に関連する問題に十分に注意を払ってきたでしょうか。

ジェンダー研究所が2020年11月に開催したオンラインセミナー「月経教育と女性の生涯の健康」では、月経は女性の健康と重要な結びつきを持っているのに、月経に関する教育が学校教育でも社会の中でもまだ不十分である現状が多様な方面から報告されました。セミナーに参加した方からも多くの反響をいただき、その中に女性だけでなく、社会全体がもっと月経の知識を持ち、月経に関する問題に向き合うべきだという意見もありました。そこで、女性の月経に関するIGSセミナーの第2弾として、最近マスメディアなどでも取り上げられることの多い「生理の貧困」に焦点を当て、多くの専門家や一般の方たちと、この問題について考え議論したいと、このセミナーを企画しました。

若い女性たちの中には、貧困のため、月経という女性として避けることのできない生理現象が原因で、就職や人生におけるステップアップのための大事な機会を喪失している人が少なくありません。そこでイギリスの研究者で、映像制作のスペシャリストでもあるエディンバラ・ネピア大学のカースティン・マックロード氏と、日本の研究者であり活動家でもあるプラン・インターナショナル・ジャパンの長島美紀氏を招いて、この問題をジェンダーの視点から議論しました。2人は英国と日本の月経の影響でさまざまな問題をかかえる女性たちを紹介し、この問題の複雑さや根深さを私たちに提示してくれました。お茶の水女子大学をはじめ、多くの大学や教育機関、公共の場でも、生理用品の無償提供を検討するようになってきています。マックロード氏にご報告いただいたエディンバラでは政府が生理用品の無償提供を行っており、日本においても学ぶべきことが多くあるように思います。

このセミナーが、貧困と女性の健康や、貧困と女性の機会喪失についてご参加いただいた方々の考える場となり、今後の活動の展開の一助となればと思います。

2022年2月
IGS オンライン国際セミナー（生殖領域）企画および報告書編集作成責任者
お茶の水女子大学ジェンダー研究所
特任講師
仙波由加里